

文書番号	<b>IEB-09</b>	版	0.00
		全ページ	13枚

エコアクション21  
**環境活動レポート 2010**

第0.00版

(対象期間：2009年4月1日～2010年3月31日)

作成日 2010 年 5 月 15 日

改訂日 2010 年 7 月 1 日

**株式会社 池上鉄工所**

目 次

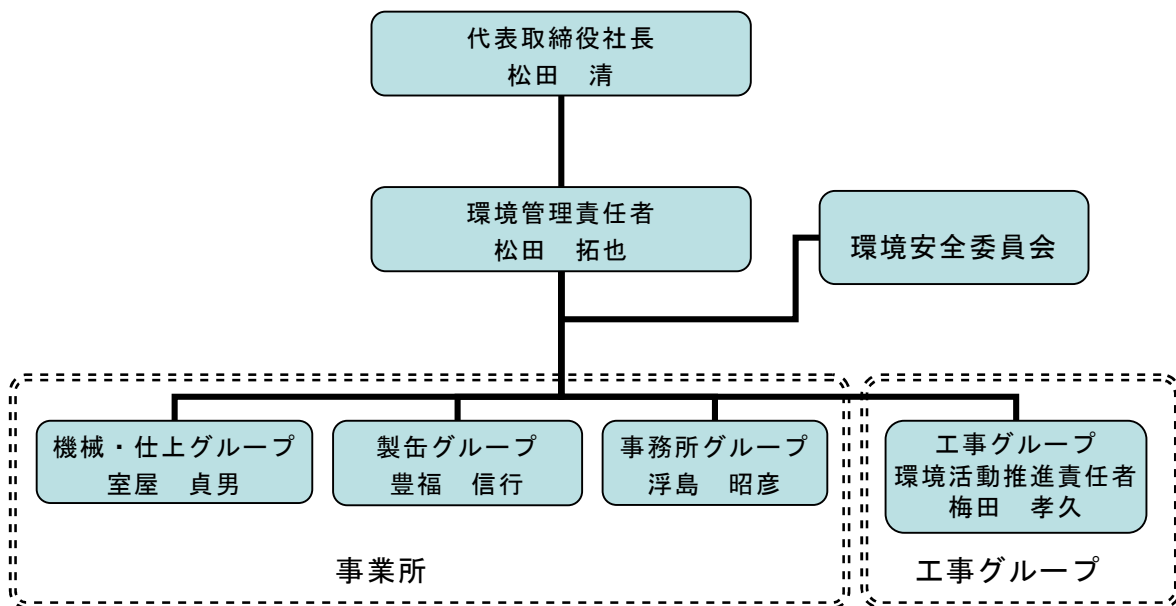
目 次	1
1. 組織の概要	2
2. 環境方針	3
3. 環境目標とその実績	4
3.1 環境目標の設定（3ヵ年計画）	4
3.2 本年度の環境目標と実績	4
4. 主要な環境活動計画の内容	5
5. 環境活動の取組結果の評価	5
5.1 二酸化炭素排出量の削減	5
5.2 廃棄物排出量の削減	7
5.3 水資源投入量（排水量）の削減	8
5.4 環境活動の評価	9
5.5 環境活動の取組の評価	11
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無	12

1 組織の概要

- 1.1 事業所名 **株式会社 池上鉄工所**
- 1.2 代表者氏名 代表取締役社長 松田 清
- 1.3 事業所所在地 宮崎県延岡市大武町 39-6
- 1.4 事業活動の内容 機械装置及び部品の製造および機器据付配管工事  
(建設業許可番号 宮崎県知事許可 般-19 第 1217 号)  
許可を受けた建設業：管工事業・鋼構造物工事業・機械器具設置工事業
- 1.5 環境管理責任者氏名及び連絡先 総務グループ 松田 拓也  
Tel ; 0982-34-3211 Fax ; 0982-65-4859 E-mail ; takuya@ikegamitekko.co.jp
- 1.6 事業の規模

活動規模	単位	2006年 (05.10~06.9)	2007年 (06.10~07.9)	2008年 (07.10~08.9)	2009年 (08.10~09.9)
製品販売量	百万円/年	886	950	851	845
従業員数	人	61	64	67	72
床面積	m <sup>2</sup>	4,443	4,443	4,443	4,443
敷地面積	m <sup>2</sup>	17,566	17,566	17,566	17,566

1.7 環境活動推進体制



※事業所とは、機械・仕上グループ、製缶グループ、事務所グループを示す。  
 ※事務所グループは、営業グループ、購買グループ、総務経理グループとする。  
 ※認証登録範囲は、上記二重線内の事業所及び工事グループとする。

## 2 環境方針

## 環境方針

2007年10月01日

### 【環境理念】

株式会社 池上鉄工所は、循環型社会の構築を目指して、省資源・省エネルギーに努め、自然・社会・人と調和した事業活動を展開します。

### 【環境方針】

1. 環境目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。
2. 具体的な取り組みとして、次のことを推進します。
  - ① 節電・省エネルギーに努め、二酸化炭素の排出量を削減します。
  - ② 金属廃棄物及び一般廃棄物は、リサイクルに努め、廃棄物の排出量を削減します。
  - ③ 水の使用量の低減に努めます。
3. 環境関連法規制等を遵守し、地域の環境保全に努めます。
4. 当社の全ての従業員にこの環境方針を周知します。

株式会社 池上鉄工所

代表取締役社長 松田 清

### 3 環境目標とその実績

#### 3.1 環境目標の設定（3カ年計画）

2008年12月よりE A21の取組に際し、2008年より2010年までの3カ年の環境活動目標を下記のように設定した。

**【 2008年から2010年までの環境活動目標3カ年計画 】**

- ①二酸化炭素排出量を3年間で5%削減する。
- ②廃棄物の総排出量を3年間で5%削減する。
- ③水資源投入量（排水量）を3年間で5%削減する。

※基準データは2007年の実績値とする。

環境活動3カ年計画の具体的な数値目標を図表-1に示す。

環境活動3カ年計画の数値目標						
項目	単位	2007年実績	2008年目標	2009年目標	2010年目標	削減率
二酸化炭素排出量	Kg-CO <sub>2</sub>	133,253	131,000	128,800	126,600	5%
廃棄物排出量	ton	13.5	13.2	13.0	12.8	5%
水資源投入量	m <sup>3</sup>	7,879	7,747	7,615	7,485	5%

※削減率は、2007年の実績を基準として、3年間の削減目標を示す。  
※廃棄物排出量の2007年と2008年の数値には、一般廃棄物排出量が含まれておりません。

図表-1 環境活動3カ年計画の数値目標

#### 3.2 本年度の環境目標と実績

環境目標3カ年計画を達成するため、本年度の環境目標の詳細を図表-2に示す如く設定し活動した結果、下記に示すような結果となった。

なお、各活動の評価は、5項（環境活動の取組結果の評価）に記載する。

##### (1) 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量を3年間で5%削減するための、2009年の“購入電力量”“化石燃料”の削減目標並びに実績、達成率を図表-2に示す。

##### (2) 廃棄物の総排出量の削減

2009年のコピー用紙使用量と廃棄物総排出量の削減目標並びに実績、達成率を図表-2に示す。

(3) 水資源投入量（排水量）の削減

2009 年の水資源投入量（排水量）の削減目標並びに実績、達成率を図表-2 に示す。

項目		単位	2007 年 07.04~08.03	2009 年(09.04~10.03)			
				目標	実績	目標比	
二酸化炭素 排出量	購入 電力	200V	Kwh	140,641	135,952	103,944	76.5%
		100V	Kwh	85,618	82,764	87,755	106.0%
		合計	Kwh	226,259	218,716	191,699	87.6%
		灯油	L	3,596	3,476	3,165	91.1%
		ガス (LPG)	m <sup>3</sup>	31.9	30.8	31.0	100.6%
		ガソリン	L	11,360	10,981	8,726	79.5%
		軽油	L	4,685	4,505	3,673	81.5%
		<b>二酸化炭素 排出量合計</b>	<b>Kg-CO<sub>2</sub></b>	<b>133,253</b>	<b>128,800</b>	<b>110,102</b>	<b>85.5%</b>
廃棄物総排 出量	コピー用紙使用量	枚	240,500	232,483	226,500	97.4%	
	一般廃棄物排出量	ton	0.65	0.64	0.63	98.8%	
	産業廃棄物排出量	ton	13.5	13.0	6.9	81%	
	<b>廃棄物排出量合計</b>	<b>ton</b>	<b>14.15</b>	<b>13.64</b>	<b>7.53</b>	<b>55.2%</b>	
水資源投入量（排水量）		m <sup>3</sup>	7,879	7,615	8,095	106.3%	

図表-2 環境活動詳細目標と実績表

4 主要な環境活動計画の内容

環境目標 3 カ年計画を達成するため、本年度の環境計画を策定したが、活動の詳細は、5.4 環境活動に対する評価 図表-9, 10 (P9, 10) 及び環境活動への取組みの自己チェックシート 図表-11, 12 (P11, 12) を参照ください。

5 環境活動の取組結果の評価、次年度の取組内容

5.1 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量の削減についての活動実績は、図表-3、図表-4 に示すように、全体では活動目標に対して、活動実績が 85.5% 目標を大幅に達成することが出来た。詳細を見てみると購入電力 (200V) が、目標に対して 76.5% となり、購入電力 (100V) は、106% と高くなっている。これは、昨年より製缶グループの受注量減少に伴う溶接作業、グラインダー作業が減少したことによるものである。

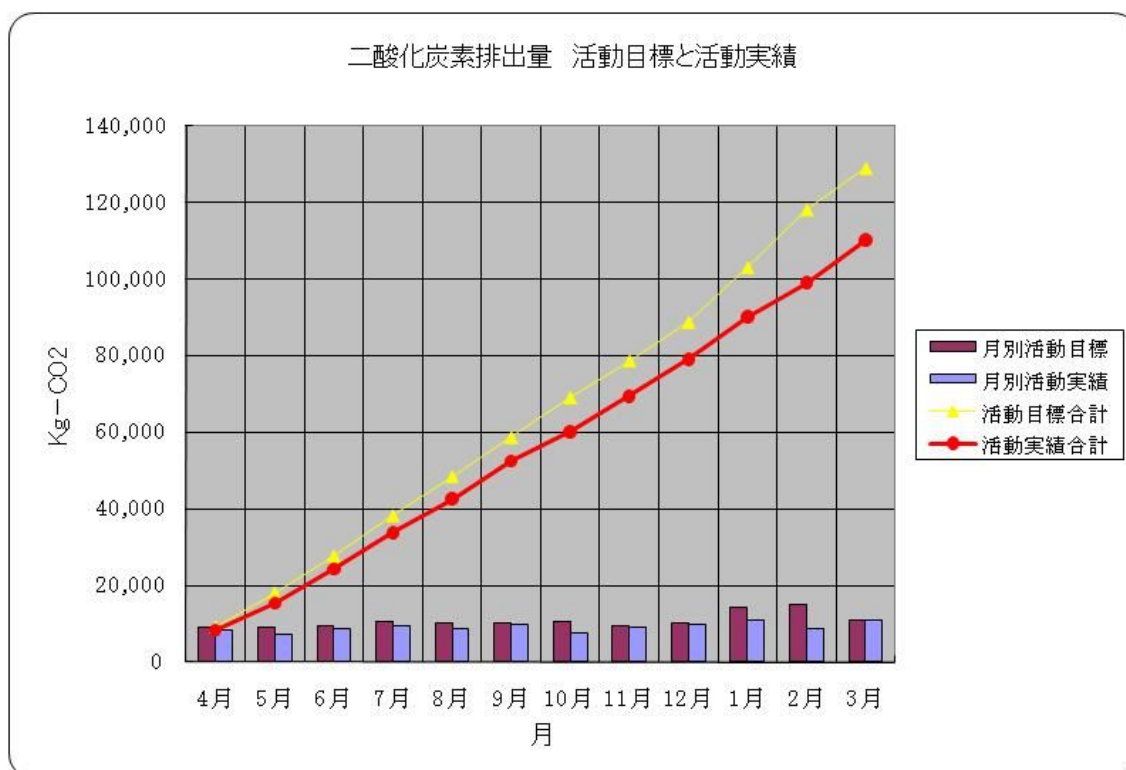
また、ガソリン、軽油の使用量が、目標に対して 79.5%、81.5% となっている。これは、前年度の以上に運搬・輸送の改善（運搬の外注化、運搬の効率化等）、運転日

誌の記入による意識面の定着化が効果も出てきていると思われる。

灯油は、目標どおり達成したが、ガスの使用量 100.6%となり、これは既存顧客や今後取引の可能性のある企業の訪問が夏と冬場に増加したことによるものである。

項目		単位	2007年	2009年		目標比	
			実績	目標	実績		
二酸化炭素排出量	購入電力	200V	Kwh	140,641	135,952	103,944	76.5%
		100V	Kwh	85,618	82,764	87,755	106.0%
		合計	Kwh	226,259	218,716	191,699	87.6%
		灯油	L	3,596	3,476	3,165	91.1%
		ガス (LPG)	m <sup>3</sup>	31.9	30.8	31.0	100.6%
		ガソリン	L	11,360	10,981	8,726	79.5%
		軽油	L	4,685	4,505	3,673	81.5%
		二酸化炭素排出量合計	Kg-CO <sub>2</sub>	133,253	128,800	110,102	85.5%

図表-3 二酸化炭素排出量の削減目標と活動実績表



図表-4 二酸化炭素排出量 活動目標と活動実績の推移

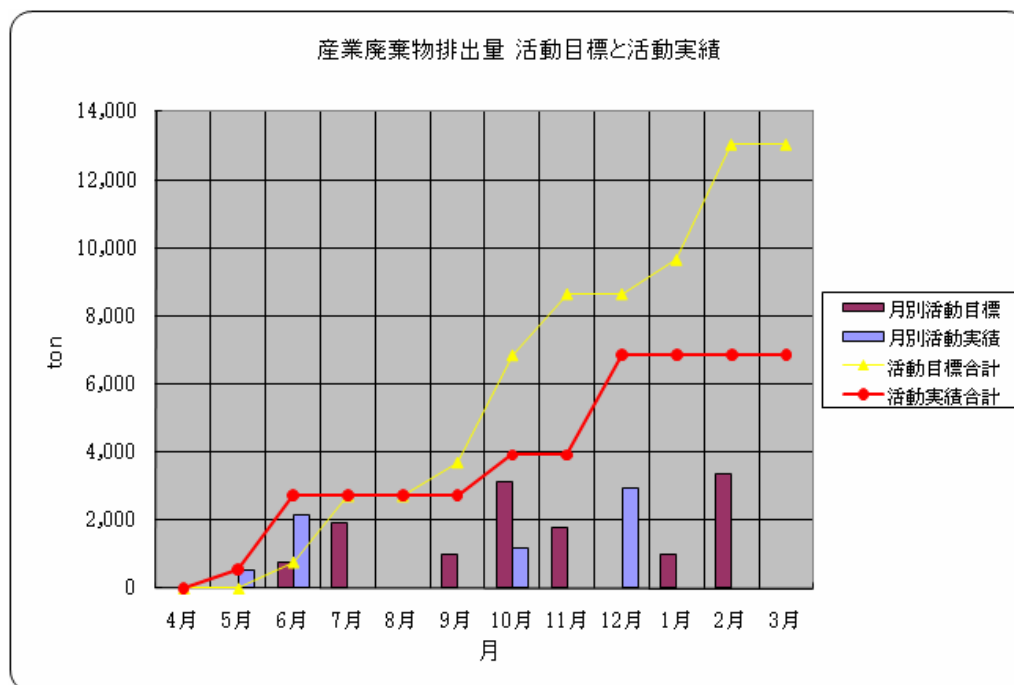
## 5.2 廃棄物排出量の削減

産業廃棄物の排出量については、活動目標に対して、活動実績は 53.1%となった。廃棄物合計では、55.2%となり、目標に関しては大幅達成できたが、これは受注量の減少が影響しているのもひとつの要因である。しかし、受注競争激化による材料の購入で残材の出ない購入方法等、購入方法の改善・徹底により、大きく削減できたと考えられる。

また、コピー用紙使用量については活動目標に対して活動実績が 97.4%となり、目標を達成できた。完成図書の作成等、業務上での紙使用量が多大となったことが裏紙使用やペーパーレスなどが徐々に浸透してきたことが考えられる。

廃棄物排出量の活動目標と活動実績						
項目	単位	2007年	2009年		目標比	
		実績	目標	実績		
廃棄物総排出量	コピー用紙使用量	枚	240,500	232,483	226,500	97.4%
	一般廃棄物排出量	ton	0.65	0.64	0.63	98.8%
	産業廃棄物排出量	ton	13.5	13.0	6.9	53.1%
	廃棄物排出量合計	ton	14.15	13.64	7.53	55.2%

図表-5 廃棄物排出量 活動目標と活動実績表



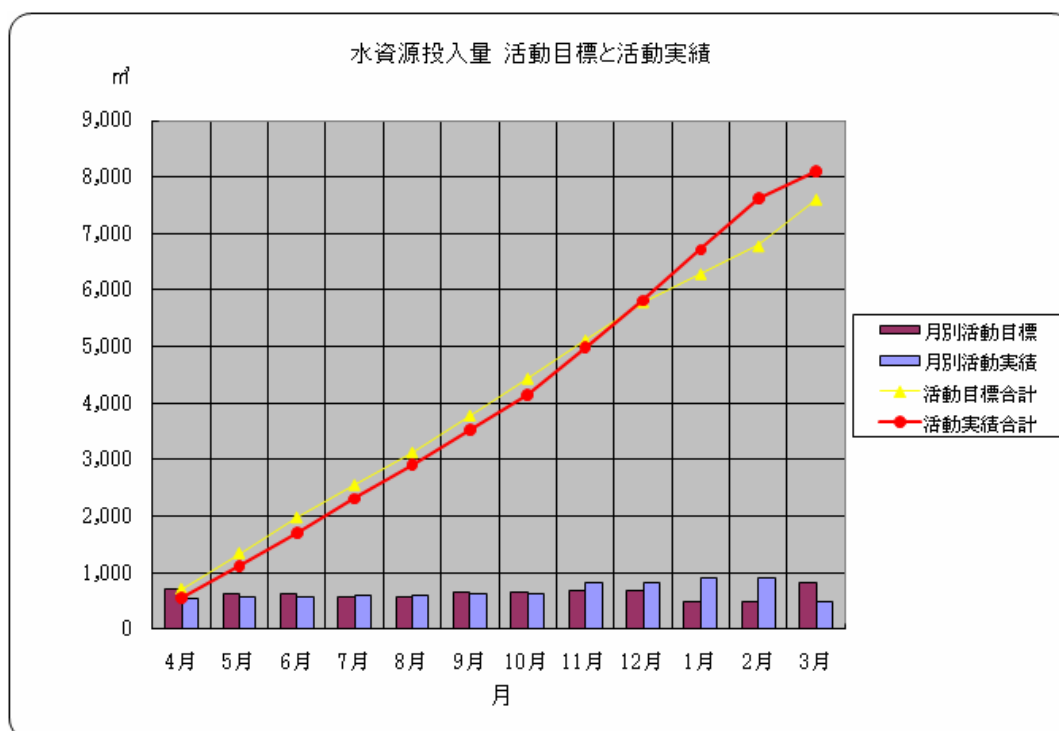
図表-6 廃棄物排出量 活動目標と活動実績の推移

### 5.3 水資源投入量（排水量）の削減

水資源投入量（排水量）については、図表-7、図表-8に示すように、活動目標に対し、106.3%となり、未達成となった。原因としては、11月中旬から製缶工場南側のトイレ付近の配管が老朽化に伴い、水漏れが発生したことが原因である。3月に業者と都合が付き修復作業は完了している。

項目	単位	2007年	2009年		目標比
		実績	目標	実績	
水資源投入量（排水量）	m <sup>3</sup>	7,879	7,615	8,095	106.3%

図表-7 水資源投入量 活動目標と活動実績表



図表-8 水資源投入量 活動目標と活動実績の推移

### 5.4 環境活動の評価

今期の環境活動に対する評価は、事業所編を図表-9 に示し、工事グループ編を図表-10 に示す。

環境活動の評価【事業所編】				
項目	環境活動内容	活動方法等	評価結果	
活動 P R	①環境活動方針の周知徹底	環境方針の掲示	◎	
	②納入業者に活動協力依頼	活動協力文の掲示	◎	
二酸化炭素排出量の削減	電力量の削減	①昼休みは事務所内の不要な電灯は消灯する。	チェックシートの作成	△
		②不必要な箇所の間引き点灯をする。	スイッチ紐の取付	△
		③エアコンの運転監視をする。 (設定温度：冬季 22℃，夏期 25℃)	設定温度の表示	◎
			スイッチ on/off の監視記録を取る。	○
	④クールビズ・ウォームビズの推進	シーズン前に P R	◎	
	ガソリン・軽油の削減	①走行中は、急発進・急ブレーキをやめる。	P R (環境教育)	○
		②車間距離をとり、法定速度で運転する。	P R (環境教育)	○
		③車両の整備点検をこまめにする。	法定点検の遵守	◎
④運転記録を残す。(走行距離、行き先)		運転記録簿	◎	
廃棄物排出量の削減	廃棄物の削減	①分別回収でリサイクルに努める。	回収ボックスの区分	◎
		②再利用排出に努める。	置場の区分	◎
		③パレット・梱包材の再利用	P R (環境教育)	◎
	用紙の再利用・再生利用の励行	①裏紙の再利用(個人情報、機密文書は使用しない。)	P R (環境教育)	◎
		②シュレッダー処理は最小限(機密文書のみ)にする。	P R (環境教育)	○
		③再生紙を使用する。(コピー用紙、名刺)	指定購入	○
		④ペーパーレス化に努める。	社内 Lan の活用	○
		水資源投入量の削減	①事務所・トイレ等の清掃時、節水に努める。	P R (貼り紙)
②蛇口及び便器からの漏水の点検をする。	点検表の作成		◎	
グリーン購入	文房具、消耗品の購入に際しては、グリーン購入に努める。	エコマーク・グリーンマーク認証製品の購入	○	
<p><b>【環境活動の評価】</b></p> <p>全体的にみると、昨年より P R 啓蒙により実績としても効果は出ているが、個人で意識レベルに差があるので更なる改善は必要と思われる。</p> <p>車両管理についてはほぼ定着しており、エアコン監視記録・事務所消灯記録のチェックシートの記入はされていなが、事務所にとって担当を決め夏・冬は時間を決め数分間エアコン停止実施しており、節電効果が出たと見られる。また、事務所の蛍光灯も必要外のところは夏から取り外したのも効果に表れていると思われる。</p> <p>裏紙利用については、事務所に裏紙入れの箱を設置し、P R したがまだ個人差が見られるので更なる啓蒙 P R が必要。</p> <p>評価結果 ◎：実施中(良好) ○：実施中(あと一步) △：実施中(まだまだ) ×：実施されていない</p>				

図表-9 環境活動の評価【事業所編】

環境活動の評価【工事グループ編】				
項目	環境活動内容	活動方法等	評価の結果	
活動PR	①環境活動方針の周知徹底	環境方針の掲示	◎	
	②納入業者に活動協力依頼	活動協力文の掲示	◎	
二酸化炭素排出量の削減	電力量の削減	① エココンの運転監視をする。(夏季25℃) (工事現場事務所用)	設定温度の表示 該当なし	
	ガソリン・軽油の削減	①走行中は、急発進・急ブレーキをやめる。	PR (環境教育)	○
		②車間距離をとり、法定速度で運転する。	PR (環境教育)	○
		③車両の整備点検をこまめにする。	法定点検の遵守	◎
		④運転記録を残す。(走行距離、行き先)	運転記録簿	◎
	⑤エンジンウォルターのアイドリング防止	注意喚起表示板取付	該当なし	
灯油の削減	冬季暖房時ストップ利用管理 プレハブ在室時以外は消火	注意喚起表示 啓蒙PR	該当なし	
廃棄物排出量の削減	廃棄物の削減	①分別回収でリサイクルに努める。	回収ボックスの区分 該当なし	
	用紙の再利用・再生利用の励行	②パレット・梱包材の再利用	PR (環境教育) 該当なし	
		①シュレッダー処理は最小限(機密文書のみ)にする。	PR (環境教育)	○
水資源投入量の削減	②再生紙を使用する。(コピー用紙、名刺)	指定購入	△	
	①事務所・トイレ等の清掃時、節水に努める。	PR (貼り紙)	該当なし	
環境汚染防止	②蛇口及び便器からの漏水の点検をする。	点検表の作成	該当なし	
	①エンジンウォルター燃料漏れ防止	オイルパンを設置する	器材準備 良	
	②油流出の防止	オイルマット・吸着砂を配備	器材準備 良	
	③廃材・残材の回収	現場に廃材置場を設置	器材準備 良	
	④溶接等の火の粉による火災防止	防災シート・防火用水・消火器の配備及び残火の確認	安全教育を実施している	
<p><b>【環境活動の評価】</b>                  該当する工事(現場)がなかったが、活動計画にある項目については教育・PR・器材等の準備はできている。                  総体的には日常管理の中で、指導がなされている。</p>				
評価結果 ◎：実施中(良好) ○：実施中(あと一步) △：実施中(まだまだ) ×：実施されていない				

図表-10 環境活動の評価【工事グループ編】

5.5 環境活動マネジメント取組の評価

エコアクション 21（2004 年度版）の“環境への取組の自己チェック”に基づき、自己チェックした結果を下表（図表-11、図表-12）に示す。

環境への取組の評価【事業所編】						
チェック項目	チェック結果の点数		満点	実施度合い(%)		備考
	2009.03	2010.03		2009.03	2010.03	
<b>1 事業活動へのインプットに関する項目</b>	22	22	68	32%	32%	
1) 省エネルギー、新エネルギー使用の拡大	12	12	32	38%	38%	
2) 省資源、グリーン購入	5	5	22	23%	23%	
3) 節水、水の効率的利用	5	5	14	36%	36%	
<b>2 事業活動からのアウトプットに関する項目</b>	193	203	284	68%	71%	
1) 二酸化炭素の排出抑制、大気汚染等の防止	25	29	36	69%	81%	
2) 化学物質対策	7	7	20	35%	35%	
3) 製品の開発・設計等における環境配慮	18	18	26	69%	69%	
4) 廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理	86	92	104	83%	88%	
5) 排水処理	13	13	22	59%	59%	
6) 輸送に伴う環境負荷の低減	30	30	42	71%	71%	
7) 建築物の建築・解体、開発事業の環境配慮	14	14	34	41%	41%	
<b>3 環境経営システムに関わる項目</b>	78	78	130	60%	60%	
1) 建物等の設計における環境配慮(提案)	5	5	10	50%	50%	
2) 環境影響評価・環境配慮の基本方針	1	1	2	50%	50%	
3) 環境保全のための仕組み・体制の整備	46	46	66	70%	70%	
4) 環境教育、環境保全活動の推奨等	16	16	28	57%	57%	
5) 情報提供、社会貢献、地域の環境保全	8	11	20	40%	55%	
6) 環境ビジネス、技術開発	2	2	4	50%	50%	
7) 国際協力及び海外事業における配慮	-	-	-	-	-	
8) 投資・融資における環境配慮	-	-	-	-	-	
<b>合計</b>	293	306	482	61%	63%	
<p>【環境への取組の評価】</p> <p>2010年の実績をみるとまだ63%と2009年から取り組みとしては2%の伸びしかないため、まだまだ更なる活動や全社一丸となつての取り組み体制が必要である。</p> <p>1 事業活動へのインプットに関する項目 グリーン購入の推進活動の中で、エコマーク製品の購入が少しずつ定着し、再利用・リサイクルしやすい製品を優先的に使用・購入するようになってはきている。節水・節電に関しては、具体的な事例や数字を元に全社的に働きかけるような対策が必要である。</p> <p>2 事業活動からのアウトプットに関する項目 日常業務のなかでの活動（エアコンの時間帯使用制限監視、事務所照明の消灯・必要ない蛍光灯の排除等）は活発化してきたが、裏紙の使用・両面コピー・ツアーアップなどの推進に関しては、更なる活動が必要である。</p> <p>3 環境経営システムに関わる項目 環境関連法規の遵守・環境コミュニケーションの実施に対する体制は構築できたが、遵守の徹底・コミュニケーションの充実に更なる活動が必要である。</p>						

図表-11 環境活動への取組の評価【事業所編】

環境への取組の評価【工事グループ編】						
チェック項目	チェック結果の点数		満点	実施度合い(%)		備考
	2009.03	2010.03		2009.03	2010.03	
<b>1 事業活動へのインプット・アウトプットに関する項目</b>	<b>59</b>	<b>77</b>	<b>108</b>	<b>55%</b>	<b>71%</b>	
1) 省エネルギー、新エネルギー使用の拡大	1	1	2	50%	0%	
2) 省資源、グリーン購入	3	4	6	50%	67%	
3) 節水、水の効率的利用	-	-	-			
4) 大気汚染等の防止	4	4	6	67%	67%	
5) 化学物質対策	4	4	12	33%	33%	
6) 廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理	16	22	26	62%	85%	
7) 排水に伴う環境負荷の低減	6	10	12	50%	83%	
8) 輸送に伴う環境負荷の低減	15	22	26	58%	85%	
9) 悪臭、騒音、振動防止	6	6	12	50%	50%	
10) 緑化などの地域環境の保全	2	2	2	100%	100%	
11) その他、施工～改修～解体工事に当たっての環境配慮	2	2	4	50%	50%	
<b>2 事業活動そのものが環境改善等に結びつく項目</b>	<b>48</b>	<b>48</b>	<b>100</b>	<b>48%</b>	<b>48%</b>	
1) 環境保全のための仕組み・体制の整備	30	30	64	47%	47%	
2) 環境教育、環境保全活動の推奨等	8	8	18	44%	44%	
3) 情報提供、社会貢献、地域の環境保全	10	10	18	56%	56%	
<b>合計</b>	<b>107</b>	<b>125</b>	<b>208</b>	<b>51%</b>	<b>60%</b>	

【環境への取組の評価】

1 事業活動へのインプット・アウトプットに関する項目  
 環境方針・活動目標の周知で、環境に対する意識の高揚がされてきた。インプットに関する項目ではグリーン購入の意識が定着しつつある。アウトプットに関しては、廃棄リサイクル等に意識及び行動の変化が見られ改善がされたが、まだまだ個人差がある。負荷の軽減に向けて更なる意識の高揚、行動の変化で改善を進める為に、PRなどの啓蒙が必要。

2 事業活動そのものが環境改善等に結びつく項目  
 環境活動の実施体制の構築（特に若手層を中心に）とそれに伴う環境コミュニケーションの構築等で改善されてきた。情報の発信で地域との連携活動を活発化しなければならない。

建設工事における、環境への取組は社会的にも関心が高い上、顧客へのPRやイメージアップにもプラスとなる働きがある。アウトプットに関する活動と地域環境保全活動に関して社会的貢献ができる様、更なる活動が必要である

図表-12 環境活動への取組の評価【工事グループ編】

6 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規に関する違反について1年間の遵守状況を自らチェックした結果、違反はなかった。

また、関係機関等からの指摘、地域からの環境に関する苦情・要望は過去4年間無く、訴訟等も同様に1件も無かった。